

平成30年度 第3回長井市振興審議会 議事録

開催日時：平成30年11月9日（金） 15時00分～17時00分

開催場所：TASパークホテル 3階アイリス

出席者：30名（委員15名、事務局15名）

■振興審議会委員 土屋正人委員、寒河江忠委員、孫田和彦委員、加藤眞佐夫委員、大山勲委員、蒲生直樹委員、梅津壮一郎委員、神田忠正委員、菊地とく委員、小幡知之委員、北川忠明委員、勝見英一朗委員、梅津雄治委員、長沼真知子委員、平吹登委員（出席15名、欠席3名）

■事務局 遠藤健司副市長 泡瀬栄人地方創生戦略監、齋藤環樹総務参事、佐野安広厚生参事、谷澤秀一産業参事、青木邦博建設参事、伊藤亮一会計管理者、竹田利弘地方創生参事、川村直人教育参事、小関浩幸総務課長、鈴木嗣郎財政課長 総合政策課 加藤潤子総合戦略主幹、今野透総合戦略室係長、平宗正主任、齋藤晋主事

傍聴者：なし

【次第】

- 1 開会
- 2 長井市振興審議会委員の任命（新任委員）
- 3 あいさつ
- 4 報告
(1) 後期基本計画素案に対する振興審議会委員の意見と対応について（資料1）
- 5 協議
(1) 後期基本計画における重点戦略について（資料2）
(2) 長井市第五次総合計画 後期基本計画（案）について（資料3）
(3) 今後のスケジュールについて（資料4）
- 6 その他
- 7 閉会

【議事録】

- 1 開会
- 2 長井市振興審議会委員の任命（新任委員）
副市長から新任委員1名へ委嘱状を交付した。
- 3 あいさつ

○遠藤健司 副市長

委員の皆様におかれましては、お忙しいところ当審議会にご出席頂き感謝申し上げます。また11月3日開催された市民表彰式にて、市政功労者として菊地とく委員が表彰されました。おめでとうございます。

これまで2回の審議会では、様々な事業についてのご視点、ご意見とアイデアを頂戴し、本日はこれをもとに3つの重点戦略の方向をお示しします。

山形県の人口が109万人を切った報道がありました。人口統計開始から88年、それ以降初めて日本全体が減少に転じたとのこと。県内各市町村も同じような状況にありますが、幾つかの市では人口が増加しているとのことでした。他方、長井市の人口は27,031人と短期的には踏みとどまって

います。長井市総合計画後期基本計画では、今後5年、子育て世代の人口をいかに定着させるかがキーになります。

本日は忌憚ない意見をよろしくお願いいたします。

○北川忠明 振興審議会会長

委員の皆様におかれましてはご参集いただきありがとうございます。すっかり秋らしくなり、木々も色付き、きれいな季節となりました。前回の振興審議会の後、私事ではありますが、9月の半ばに百秋湖を訪れた際、百秋湖に向かうバスの中で近隣自治体の人と思われる人と会い、毎年、家族で訪れるという話を聞きました。またボートでは福島県と宮城県から訪れた方と一緒にになりました。交流人口と定住人口を増やすことは地域が持続していくうえで重要ですが、最近、関係をもって定期的に訪れる関係人口を維持することが都市の持続に重要とされています。関係人口とは、長井市と関係をもって、定期的に長井市を訪れる人のことで、サポーターとか応援人口とか言われ方をしてきたから新しいことではありませんが、毎年、長井マラソンに参加する人も関係人口です。レインボーランの視察もその一つでしょう。長井市には、既に関係を持っている人はたくさんおり、そういった人を大事にしていきたいと思います。

副市長からお話のあったとおり、本日は重点戦略について議論いたします。そういったことを踏まえて忌憚のない意見をいただきますようお願いいたします。

4 報 告 [座長＝北川会長]

- (1) 後期基本計画素案に対する振興審議会委員の意見と対応について
資料1に沿って、事務局から説明。

→ 質問事項等なし。

5 協 議 [座長＝北川会長]

- (1) 後期基本計画における重点戦略について
資料2に沿って、事務局から説明。

(座長)

重点戦略についてはしっかりと時間を取って議論したいと思います。とりわけ若い世代の委員の方には、これからの担い手としてご意見をいただきたくお願いいたします。

(委員)

資料2の重点戦略3のものづくりの技術をいかした産学連携の実施について、地元だと長井工業が思いつくが、全県で考えると山形大学工学部になるかと思います。ものづくりにおける産学連携の状況と、どういった点で連携できるかお聞かせください。

(事務局)

現在進めているのは、山大工学部と連携して新たな産業を生み出す拠点を作ろうという計画が進んでいます。活用する場所については旧長井小学校第一校舎を想定しつつ、計画を進めているところです。

(委員)

ありがとうございます。事業者として、身近なところで産学連携の相談ができればいいと思います。

(委員)

資料3の6ページ、長井で働く魅力アップの現状と課題で、市内で若者が希望する職種が少なくとの記載がありますが、若い世代は具体的にどのような職を希望しているか把握されているのでしょうか。

(事務局)

成人式で実施したアンケートの結果、公務員、看護師、教員、金融機関を希望する人が多くありました。

(委員)

また求職者のミスマッチとありますが、どこからミスマッチが起きているということでしょうか。

(事務局)

看護師等を含むサービス業での就業希望者が多くなっておりますが、実際に求人する企業は建設や製造業で多くなっております。看護師も人材不足ですが、長井の求人の状況を見てみますと、それ以上に二次産業、いわゆる製造業、建設業で人が足りない状況にあります。サービス業ではありますが福祉事業所でも求職は多くなっております。そういったところを希望する方よりも、成人式で回答のあったような職を希望する方が多く、そこでミスマッチが起きているように感じています。

(委員)

ミスマッチ解消に向けた対応を期待しています。

(事務局)

長井で働く魅力についてご意見がありました。長井市では、ものづくりや産学連携につきましては、必ずしも長井市だけに集結しなくてもよく、例えば山大工学部でやっているインキュベーションの仕事と、長井市の仕事を結びつけることも一つの産学連携の手段と考えています。あるいは、基盤技術をモジュールとして集め、設備機械を製作する等、そういったものを含めた産学連携の可能性があると考えています。そういった中で、高度な技術については山形大学工学部、その基盤技術を支えるところで長井工業高校と連携ができればと考えております。

ミスマッチの事例として、アンケートでは特徴的な部分をお話しましたが、市内の会社では、ドローンの専門家が就職しました。最近では、職業についてはアーティストや研究者等、また勤務時間についてはフルタイムではなく半日勤務等多様化しています。こういった多様化への対応が求められていると考えています。

(座長)

多様化への対応は、若者が定住するうえで重要なポイントとなるのではないのでしょうか。

(委員)

重点戦略の方向性ができ、子育て世代の定着を目指すことを明確に打ち出されていることを嬉しく感じます。この10月3日の尾木直樹さんの講演で、名古屋市や山口県の例で、古いも若きも小さな塾的な、フェスティバル的なことを行って、そこで地域の人たちが仲良くなる。教えたり教えられたりすることで子どもも大人も元気になるということをおっしゃっており、その点大変感銘を受けました。こういった大きな枠組みで考えられていることについて賛成です。それと共に、この街に生きていて、それぞれの立場で良いところを生かしながらやっていく、そういった姿勢も、後期基本計画を出す際に必要ではないかと思っています。

例えば、長井の景観を生かした愛着を育てる教育をするとありますが、景観だけではなく、人と深く関わって生きていくことが幸せに繋がり、子育て世代の定着に繋がるのではないのでしょうか。行政としては手を差し伸べにくいところではあると思いますが、まさに大きな計画をたてているだけに、よろしく願いいたします。

(委員)

青年団体として、地域と一体となって活動を支援していきたいと考えています。小さい時から地域の大人に育てられてきました。地区の活動について、育成会等の活動をバックアップしてもらえようになればいいと思います。

(事務局)

文化的景観については、今年の2月に国の選定を受け、次の世代に残さなければならない、という

ことが大きなコンセプトになっています。それを施策の中に盛り込んでいかなければならないと考えています。

(事務局)

重点戦略について見落としがちな点のご指摘、感謝申し上げます。岐阜県可児市ではやさしい笑顔と幸せをテーマに、世代を超えた教え合い、支え合いをコンセプトにした施設を建設したと聞いています。可児市は、元々、木工業、ギターメーカーで有名な街です。長井でも人のつながり、長井の心が計画の根流にあると思っています。後期基本計画の前文では、その点を強調していきたいと思っています。

(委員)

街なかで、買い物難民のような人が増えており、また周辺部の方が、スーパー等あって便利な状況になっています。街なかの人はタクシーで菜ナポートに買い物に行っていますが、まちなかで日常生活用品の買い物ができるようにするのか、ネット販売にするのか、どちらに向かうのでしょうか。

洋服の購入は市外で行うのが実情で、ちょっとした下着を買うにも、高齢者は難儀しています。そのあたりを考えなければいけないのではないのでしょうか。

また猛烈な勢いで空き家が増えている反面、アパートも増えています。行政では、個人所有の空き家について手を出しにくいところではあるかと思いますが、空き家についてどうするか、例えば外から来る人に安く貸すといった仕組みは考えられるのではないのでしょうか。

都市部と比べると、長井の若い人たちの給料は安いですが、生活費は安く子育てがしやすい、といったようなことをPRできれば、長井に来る人はいると思います。そういったPRも必要ではないのでしょうか。それは、空き家の問題と一緒に考えていくべきだと思います。

文化的景観について、街なかの人たちは関心がありません。ごく身近な人たちだけのものになっていないのでしょうか。そういった意味で、単に景観だけではなく、歴史と密接に関することで生きていることを知らせていくことは大事だと思います。

(事務局)

商店の立地は、あくまで民間の経済活動であり、極端な話、それに任せるしかありませんが、市では立地適正化計画を策定中であり、それによってコンパクトシティ&ネットワークを形成し、中心部に子育て支援施設や図書館等を配置し、病院などの機能を充実することで、民間企業を誘う取組を進めています。

また、空き家対策については、先進事例を見ながら移住者にいかに入居してもらえるか検討しているところです。また各地区の中心にはコミュニティセンターを軸とした小さな拠点を形成し、そこと中心市街地と結ぶことで、中心市街地に来れば楽しく過ごせるといった方策を考えているところです。

(事務局)

買い物難民も空き家の問題も都市のスポンジ化によるものです。長井市ではどうやって持続可能な都市を形成するかを計画しており、そのためには、第一にいかに中央地区の人口密度を保つかが課題であり、立地適正化計画では、中央地区の中に都市機能誘導区域として、商業施設を含む市役所や病院を集約し、その周辺を居住誘導区域として、例えば空き家になったところに住むように市街地から誘致することで人口密度を保ち、それが暮らしやすさや住みやすさに繋がり、それが子育て世代に波及するという計画に基づいて施策を実施していきます。具体的な施策としては、子育て支援施設や長井病院の整備であり、また買い物とか便利なものにできるよう計画を進めています。

(委員)

重点戦略3の現状と課題に関し、産業活性化に際して産業構造を変えるのか、企業誘致なのか、具体的なことがあれば教えてください。

(事務局)

長井市は、ものづくりの分野ではこの20年で企業城下町は形がなくなり、農業は米価自由化等により基盤がなくなってきました。夢をもう一度と話す方も多くありますが、これからの時代は以前と同じようにはいきません。これからの時代は自分たちで産業を生み出すことが必要です。これまで

は手を差し伸べられて生きてきたが、高速交通体系が固まっていることを踏まえ、市民が立ち上がって商売を考えることが必要になります。そういったものを支援するのがインキュベーション施設です。

また農業分野においては、6次産業化で付加価値を付与することの応援を通じ、新しい産業を生み出すことをお手伝いしたいと考えています。先ほどのミスマッチに触れ、産業構造が変わったと言いましたが、各業でも変わっています。公務員といっても、管理職、営業、研究職等があり、一般的にイメージされているものとかかなり変わってきており、それは建設業や製造業にも同じことが言えます。これまでの枠を取り去った形で色々な業を考えつつ、長井の産業を自ら作っていく、そういった活動を起こしていきたいと、産業活力推進課で活動しています。

(委員)

地区長としての視点で、中心地への機能集約に郡部では危機感を持っています。中心部と郡部をコミュニティセンターと小さな拠点で繋ぐとありますが、各地区の小学校が地区の中心であり、小学校をなくさないというメッセージがあっても良いと思いますがいかがでしょうか。

(事務局)

現在、小学校の統合の予定はありません。文言を盛り込むかは協議いたします。

(事務局)

委員からご指摘のあった中央地区への機能集約への危機感について、私も各地区長からも聞いています。2010年の国勢調査で、西根地区では自然減が多いこととUターンが少ないことから、8%人口減となりました。

各地区には、地区毎の暮らしを支える小さな拠点として今後は取り組んでいくということを伝えていきます。コミュニティセンターを中心に自らの地区の事は自らの話し合いで解決する、そういった互助活動を支える機能を各地区に整備していかなければならないと考えています。コンパクトシティとネットワークでは、道路の整備もあります。それぞれの地区間の移動、市庁舎へのアクセス整備、こういったものに関わっていくことも十分にあるかと思えます。

委員からは、どのマーケットを見て産業を作るのかというご指摘だったかと思えます。今後は長井から海外と取引していける企業を行政として支援すべきであり、また長井で育て、世界を相手に商売ができる人材を育てる施策ができるよう、庁内で話しているところです。

まちなかについては、人口あるいは住宅の集積について話がありました。市街地は、今はまだスーパーが成り立つ人口規模であり、民間企業で画策しているところであり、市では入り込めないところです。中心市街地への公共施設の整備により、商業機能は発生するものと考えており、その時は中心市街地活性化の政策に基づいて支援をしていくよう考えています。

子育てについてのご意見もいただきました。具体的なお話を申し上げますと、市の投書箱には、もっと強烈的な政策を打ち出すようにと意見がありますが、長井市では、全体の予算の中で最大限、財源を割いています。例えば放課後学童クラブに係る市民の費用負担は、他の自治体では1万円ですが、長井市では5千円です。今後、医療や待機児童についても検討を進めていきます。

(委員)

市として何をやりたいかが示されており、後期基本計画が分かりやすくなり、具体的に述べられていてよいと思います。

個別施策にも関わりますが、重点戦略1のこれからの世界に挑戦できる子ども、それに向けて外国語指導助手(ALT)、マンツーマン指導などはよく分かるが、国際的なところではICTや情報教育に重きが置かれており、情報リテラシーが必要になっています。

長井の魅力を訴えるとき、長井の子はこう育てている、というアピールができればよいのではないのでしょうか。また学力テストでは点数が出ますが、家庭教育の状況調査等色々な点から調査し、全てを出す必要はありませんが、特徴的な点を出せばPRできるのではないのでしょうか。

(事務局)

外国語に加えてICT等そういった社会の変化に対応できるよう、具体的な取組について書き加えていきたいと思えます。プログラム学習が32年度から必修になることに先行して、モデル校作りを検討しており、そういったことも含めて書き込んでいきたいと思えます。

後期基本計画では、自分にいいところがある子どもの率が指標に入っています。加えて必要な数値があれば加えていきたいと考えています。委員からもご意見をお願いします。

(委員)

長井の魅力は、関わりとか風土に育まれた人の温かさに由来するのではないのでしょうか。若者の定住には、抽象的だがそういったことが魅力になると思います。学力状況調査についても、地域への愛着や地域の行事への参加等の質問がありますので、関係性のあるところを引き出してよいのではないのでしょうか。個別の状況は分かりますが、その関わりの中でどのように育っていくかということが、産学連携の部分にも繋がっていくのではないのでしょうか。

(座長)

大学でも英語教育、プログラミング教育と言われているが出来ていません。長井市のように小学校から導入することは大切なことと考えています。

(委員)

ICTの必要性については国でも言われていますが、対応する小学校は毎日の授業で手一杯です。英語教育についてはALTが手厚く配置されていますが、モジュール授業となると対応はできません。時間割に位置付けられればよいのですが、それも困難です。そこにプログラミング授業も入ると小学校はより大変になるため、ICTは他がサポートできないのでしょうか。行政が何かしらサポートしなければ、教員の仕事は増えるばかりであり、現場への配慮が必要ではないのでしょうか。

(座長)

教える側にとっては厳しいこともありますが、世界を考えなければなりません。どちらも一気に対応するのは大変なことです。

(委員)

工短大の生徒が街歩きで空き店舗を見つけて興味を持つことがあります。国内では空き家や空き店舗等のリノベーションが流行しています。長井市では「こしゃう」がその一つで、若者が持つ古いものへの意識は違うことを理解いただきたいと思います。中には改修案まで考える学生もあり、それと空き家を結びつける動きが必要です。行政では難しいかとは思いますが、空き店舗をどのように活用するか、仕組みを作れないかと考えていきたいと思えます。

文化的景観について、市民に周知するためには何度もやらないと理解されません。文化的景観によってどんな良いことがあるか、最終目的を分かってもらい仕組みを、教育委員会と連動して考えなければいけないと思えます。具体的取組案として、小・中・高一貫で景観に関わるイベントができるかと思えます。小学校の時は参加者として、年齢が高くなったら今度はオーガナイザーとして携わることにはできないのでしょうか。文化的景観は、分かりやすく言うと川や建物、そういったものを考えて使っていくかだと思えます。その仕組みを作っていければよいのではないのでしょうか。

(座長)

多数の意見がありましたが、この重点戦略ははっきりしています。個々の意見はありますが、委員の了承をいただいたということで、進めてよいでしょうか。

→ 委員了承。

(2) 長井市第五次総合計画 後期基本計画(案)について

資料3に沿って、事務局から説明。

(座長)

指標の設定について説明がありましたが、質問等がありますでしょうか。

(委員)

1ページ基本計画の構成の7-③について、広聴の考え方があってよいのではないのでしょうか。広聴は、パ

ブリックコメントやアンケート等が該当し、相談も広聴の一つです。ついては、広報・広聴とした方が広く捉えられ、市民の信頼を得られるのではないのでしょうか。

(事務局)

広聴の考えが重要な旨理解いたしております。しかしながら、今年度1回目の当審議会にて、構成は変えないことについて了承をいただいているため、このままで進めたいと思います。また意見の吸い上げについては、基本計画案60ページの(1)の3つ目の項目に記載しております。また、まちづくり基本条例でもその旨規定されています。

(事務局)

広報・広聴と相談は異なるものと存じます。広聴については秘書の所管だが、相談業務を総合政策課で所管している自治体はまれです。ご意見は今後の参考にさせていただきます。

(委員)

ひきこもり対策について、セーフティネットの記載がありません。基本計画案16ページの学校教育、(1)の下から4つ目の項目で、特別支援への対応の仕方について記載はありますが、幼・保、小で終わらず、中・高への申し送りも確実に行って頂きたいと思います。

(事務局)

ひきこもりは小さい子どもだけの問題ではありませんので、記載について事務局で検討いたします。

(委員)

評価についてPDCAを導入してやってきていると思いますが、チェックとアクションが大切です。この点について幹部職員だけを扱っているものなののでしょうか。一般職員は分からないと聞いており、全職員が関わるべきものと思います。

(事務局)

前期基本計画の冊子8ページに、3年毎の実施計画の記載があります。この実施計画に基づいて行政評価を行っています。一次評価は各課で行い、二次評価は庁内の調整会議に諮り、三次評価として振興審議会でもPDCAを回しています。

(事務局)

各課の個別評価は、係長以下が作成しなければならないような細かい作りになっており、管理職だけではなく一般の職員も関わっているものです。

(委員)

観光振興に関してお願いします。事業目的に触れ、ながい百秋湖と三淵溪谷の位置づけをお願いします。市が今年試行した水陸両用の観光船や屋形船には関心も高く、観光協会にも問合せがあります。有効な観光資源である三淵溪谷の整備を計画に足していただきたくお願いします。

(事務局)

記載ぶりについては担当課と相談します。

(委員)

文化財が散逸されていく傾向にあるように思います。私は文教の柱に関わっており、文化生涯学習課と話をしていますが、資料の保管施設が少ない状況です。寄附・寄贈の申し入れがあっても受け入れられませんし、現状の保管場所の状況も良いものではありません。文教の柱として、資料を保管・整理し、見せることも必要ではないのでしょうか。またそういった場所はなければならぬもので、公文書をどうするかは大きな問題と思っています。

また、長井駅の「ギャラリー停車場」について、市庁舎が建設される時にギャラリー棟のような新しい施設を作るのでしょうか。

(事務局)

資料の保管について内部でも検討しています。庁舎が一つになると現在の教育庁舎が空くため、他の目的での使用を検討しています。

また、ギャラリー停車場については、会員と協議しているところで、既に対応し始めています。

(委員)

レインボープランのコンポストセンターの近況について、堆肥の製造量が減少しコストが上がっていると聞いていますが、いかがでしょうか。

(事務局)

コンポストセンターの今後の在り方については、施設も設備も老朽化しており、また生ごみの搬入量も減少しており、市民に考え方が浸透するよう、協議会を立ち上げているところです。

(委員)

農業サミットの一環で、今日、レインボープランの視察がありました。レインボープランは全国に誇れるものとは思いますが、トーンダウンしており心配しています。一案として、協議会に在籍していれば堆肥を無料で配布することが考えられ、レインボー認証で付加価値をつけることでプラスの連鎖になるのではないのでしょうか。

(事務局)

レインボープランの効果については、今年度、山形大学と共同でアンケートを実施し、例えば市民の幸福度への寄与等を検証しています。結果は今年度中に出ることになっており、来年度以降、結果を受けて、具体的な動きが出てきます。

(座長)

基本計画案について十分に議論されたかと思いますが、本日出された意見を事務局で検討のうえ、この案で市長に答申することについて了承でよろしいでしょうか。

→ 委員了承。

(3) 今後のスケジュールについて

資料4に沿って、事務局から説明。

→ 質問事項等なし。

6 その他

なし

7 閉会

以上